

令和7年度 にぎわいスポーツ文化局 予算概要について

令和7年度にぎわいスポーツ文化局予算概要は、次のとおりです。

にぎわいスポーツ文化局主要事業

1 大規模イベント等を契機とした回遊性向上・宿泊促進 [P4]

都心臨海部に数多く広がる魅力的な公共空間等を積極的に活用し、戦略的に回遊性向上・宿泊促進を図ることで、にぎわいを創出し、市内経済の活性化につなげます。

地元企業や商店街・団体等が実施主体となる横浜の歴史と魅力を生かした大規模イベントの開催支援に加えて、音楽アリーナ等で開催される民間イベント等と連携した取組やeスポーツの推進、幅広い世代が楽しめる音楽を中心としたライブエンターテインメントのフェスティバル、まち全体を光と音楽で演出する創造的イルミネーションなどを実施します。

2 観光・MICEの振興 [P6]

「横浜市観光・MICE戦略」に基づき、事業者や市民の皆様と共にオール横浜で持続可能な観光・MICEを推進します。

そのため、DMOである横浜市観光協会を中心とした多様な関係者による推進体制を強化し、マーケティングに基づく戦略的なプロモーションによる国内外からの誘客促進や、経済効果の高い中大型の国際会議・医学会議等のMICE誘致・開催支援、アフターコンベンションの充実に取り組み、来訪者の回遊性向上・宿泊促進を図ることで観光消費の拡大につなげます。

また、GREEN×EXPO 2027への機運醸成と誘客を見据え、花をテーマとしたブランディング等を展開します。

3 スポーツ環境の充実 [P9]

誰もが共に「する」「みる」「ささえる」スポーツを身近な場所で楽しめる機会を提供することで、市民の皆様健康増進や生きがいづくりを進めるとともに、共生社会の実現や地域コミュニティの活性化につなげます。

また、大規模スポーツイベントの誘致・開催や市内トップスポーツチームとの連携により、交流人口の増加、回遊性向上・宿泊促進を図るとともに、スポーツ施設を中核とした市民活動の活性化を図るなど、スポーツ都市横浜の実現に向けて、まちのにぎわいや活力を創出します。

4 文化芸術創造都市施策の推進 [P12]

次世代を担う子どもたちの豊かな創造性や感性を育むための文化芸術体験機会の更なる充実を図るとともに、各文化施設における共生社会実現への取組や、市民の皆様が文化芸術活動に取り組む環境整備を進め、心豊かな市民生活の実現に寄与します。

また、多彩なアートイベントや文化施設等の運営による魅力の発信、歴史的建造物等の活用を通じたにぎわいの創出等、文化芸術創造都市施策を推進することで、都市のプレゼンス向上につなげるとともに、創造性を生かしたまちづくりを郊外部に広げ、地域コミュニティの活性化を進めます。

さらに、文化芸術創造都市の将来像を描く基本計画として「横浜未来の文化ビジョン（仮称）」の策定を進めます。

お問合せ先

にぎわいスポーツ文化局総務課企画調整担当課長 渡邊 裕之 Tel 045-671-4030



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



にぎわいスポーツ文化局 お問い合わせ先一覧

頁	事業名	担当	電話番号
2	令和7年度 にぎわいスポーツ文化局予算案について	総務課企画調整担当課長 渡邊 裕之	671-4030
4	1 大規模イベント等を契機とした回遊性向上・宿泊促進		
4	戦略的にぎわい創出事業	にぎわい創出戦略課長 守屋 朋廣	671-4852
5	フェスティバルによるにぎわい創出事業	にぎわい創出戦略課担当課長 花摘 梢子	671-4023
5	創造的イルミネーション事業	にぎわい創出戦略課担当課長 大泉 優一	671-4241
6	2 観光・MICEの振興		
6	(1)持続可能な観光・MICE 推進体制の構築と観光・MICE 産業の活性化		
6	DMO推進事業	観光振興・DMO地域連携課長 品川 裕治	671-3940
6	(2)魅力あふれる観光コンテンツの創出		
6	三溪園施設整備等支援事業	観光振興・DMO地域連携課長 品川 裕治	671-3940
7	(3)戦略的な誘客プロモーション		
7	戦略的誘客プロモーション事業	観光振興・DMO地域連携課担当課長 石井 幸子	671-4232
7	(4)グローバルMICE都市としての競争力強化と魅力向上		
7	MICE誘致・開催支援事業	MICE振興課長 坂田 和行	671-4233
8	20街区MICE施設整備運営事業	MICE振興課誘致等担当課長 中嶋 浩章	671-4262
9	3 スポーツ環境の充実		
9	(1)スポーツに親しむ環境づくり		
9	子ども・子育て世代のスポーツ活動支援事業	スポーツ振興課長 高梨 潤一	671-3237
9	市民参加型スポーツ推進事業	スポーツ振興課長 高梨 潤一	671-3237
9	横浜マラソン開催事業	スポーツ振興課担当課長 山中 研	226-5036
10	(2)スポーツを通じた共生社会の実現		
10	インクルーシブスポーツ推進事業	スポーツ振興課長 高梨 潤一	671-3237
10	(3)大規模スポーツイベントの誘致・開催等による地域経済活性化		
10	大規模スポーツイベント等開催支援事業	スポーツ振興課担当課長 吉田 登	671-3201
11	トップスポーツチーム連携事業	スポーツ振興課担当課長 吉田 登	671-3201
11	スポーツボランティア育成事業	スポーツ振興課長 高梨 潤一	671-3237

11	(4) スポーツ施設を中核とした地域活性化		
11	スポーツ施設管理運営事業	スポーツ振興課担当課長 平野 直人	671-4445
11	屋外プール再整備事業	スポーツ振興課担当課長 平野 直人	671-4445
11	横浜国際プール再整備事業	スポーツ振興課担当課長 平野 直人	671-4445
12	4 文化芸術創造都市施策の推進		
12	(1) 文化芸術を通じた次世代育成の取組		
12	子どもの文化体験推進事業	文化振興課長 鬼木 和浩	671-3703
12	(2) 文化芸術によるまちのにぎわいの創出と国内外への発信		
12	創造都市推進事業	創造都市推進課長 新谷 雄一	671-3425
13	(3) 歴史と創造性を生かしたまちづくり		
13	創造界限形成事業	創造都市推進課担当課長 野口 敦子	671-2277
13	(4) 市民の文化芸術活動への支援と環境整備		
13	横浜未来の文化ビジョン（仮称）策定事業	文化振興課長 鬼木 和浩	671-3703
13	地域文化サポート事業	文化振興課長 鬼木 和浩	671-3703
14	文化施設運営事業	文化振興課施設担当課長 檜崎 和雄	671-3860
14	文化施設整備事業	文化振興課修繕担当課長 山田 卓	671-4376
14	横浜能楽堂大規模改修事業	文化振興課修繕担当課長 山田 卓	671-4376

令和7年度

予算概要

にぎわいスポーツ文化局

目 次

	頁
I 令和7年度 にぎわいスポーツ文化局予算案について	2
予算額の概要	
予算編成の考え方	
1 大規模イベント等を契機とした回遊性向上・宿泊促進	
2 観光・M I C E の振興	
3 スポーツ環境の充実	
4 文化芸術創造都市施策の推進	
II 令和7年度 にぎわいスポーツ文化局 主要事業	4
1 大規模イベント等を契機とした回遊性向上・宿泊促進	4
2 観光・M I C E の振興	6
(1) 持続可能な観光・M I C E 推進体制の構築と観光・M I C E 産業の活性化	
(2) 魅力あふれる観光コンテンツの創出	
(3) 戦略的な誘客プロモーション	
(4) グローバルM I C E 都市としての競争力強化と魅力向上	
3 スポーツ環境の充実	9
(1) スポーツに親しむ環境づくり	
(2) スポーツを通じた共生社会の実現	
(3) 大規模スポーツイベントの誘致・開催等による地域経済活性化	
(4) スポーツ施設を中核とした地域活性化	
4 文化芸術創造都市施策の推進	12
(1) 文化芸術を通じた次世代育成の取組	
(2) 文化芸術によるまちのにぎわいの創出と国内外への発信	
(3) 歴史と創造性を生かしたまちづくり	
(4) 市民の文化芸術活動への支援と環境整備	
◆ トピックス	15
① 脱炭素社会の実現やGREEN×EXPO 2027 に向けた取組	
② 次世代育成と子育て世代向けの取組	
③ 共生社会の実現に向けた取組	
④ デジタル技術を活用した取組	
⑤ 地域活性化に向けた取組	
III 令和7年度 にぎわいスポーツ文化局予算案総括表	20
IV 予算科目別内訳	21
1 にぎわい総務費	21
2 文化芸術創造都市推進費	22
3 スポーツ振興費	25
4 にぎわい観光M I C E 振興費	27
V 主な財源創出の取組	30
VI データドリブンプロジェクト	31

I 令和7年度 にぎわいスポーツ文化局予算案について

予算額の概要

7年度のにぎわいスポーツ文化局の一般会計予算額は、180億5,768万円、対前年度38億2,058万円（17.5%）の減となっています。

主な減額理由は、文化施設整備事業における都筑区民文化センターの整備が終了したことによるものです。

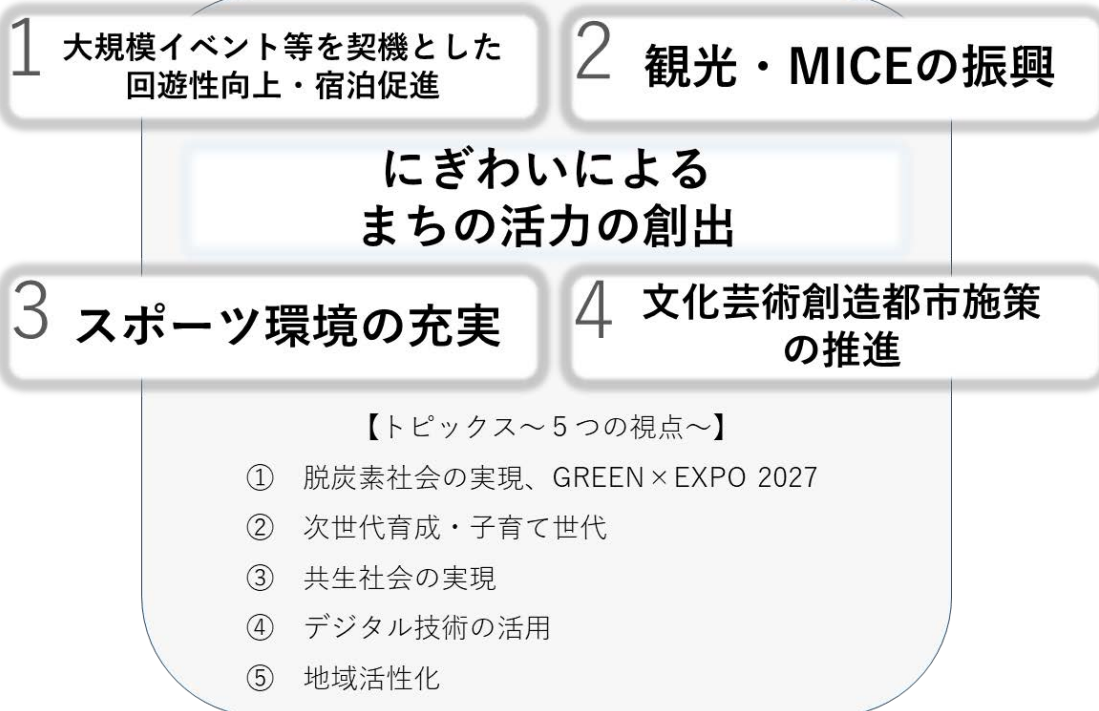
区 分	7年度予算額	6年度予算額	増 減
一般会計	180億5,768万円	218億7,826万円	△38億2,058万円 (△17.5%)

(内訳は 20 ページのにぎわいスポーツ文化局予算案総括表を御覧ください。)

予算編成の考え方

民間コンテンツを含む様々な大規模イベント等を契機に、まちを楽しんでいただく仕掛けを戦略的に展開することで、回遊性を向上させ、滞在時間を延長させるとともに、宿泊促進を図ります。あわせて、観光・MICE、スポーツ及び文化施策における、一つひとつの取組の魅力も高めることで、にぎわいによるまちの活力の創出につなげます。

7年度は、横浜市中期計画2022～2025の最終年度であることも踏まえ、基本戦略「子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ」、そして「選ばれる都市」「住みたい・住み続けたい都市」の実現に向けて、4つの柱を軸に、複雑化・多様化する社会課題や市民ニーズに対応するための5つの視点も重視しながら取組を推進します。



1 大規模イベント等を契機とした回遊性向上・宿泊促進

都心臨海部に数多く広がる魅力的な公共空間等を積極的に活用し、戦略的に回遊性向上・宿泊促進を図ることで、にぎわいを創出し、市内経済の活性化につなげます。

地元企業や商店街・団体等が実施主体となる横浜の歴史と魅力を生かした大規模イベントの開催支援に加えて、音楽アリーナ等で開催される民間イベント等と連携した取組やeスポーツの推進、幅広い世代が楽しめる音楽を中心としたライブエンターテインメントのフェスティバル、まち全体を光と音楽で演出する創造的イルミネーションなどを実施します。

2 観光・MICEの振興

「横浜市観光・MICE戦略」に基づき、事業者や市民の皆様と共にオール横浜で持続可能な観光・MICEを推進します。

そのため、DMO(※)である横浜市観光協会を中心とした多様な関係者による推進体制を強化し、マーケティングに基づく戦略的なプロモーションによる国内外からの誘客促進や、経済効果の高い中大型の国際会議・医学会議等のMICE誘致・開催支援、アフターコンベンションの充実に取り組み、来訪者の回遊性向上・宿泊促進を図ることで観光消費の拡大につなげます。

また、GREEN×EXPO 2027への機運醸成と誘客を見据え、花をテーマとしたブランディング等を展開します。

※ 観光地域づくり法人(DMO: Destination Management/Marketing Organization): 地域の多様な関係者を巻き込みつつ、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行うけん引役となる法人。

3 スポーツ環境の充実

誰もが共に「する」「みる」「ささえる」スポーツを身近な場所で楽しめる機会を提供することで、市民の皆様の健康増進や生きがいづくりを進めるとともに、共生社会の実現や地域コミュニティの活性化につなげます。

また、大規模スポーツイベントの誘致・開催や市内トップスポーツチームとの連携により、交流人口の増加、回遊性向上・宿泊促進を図るとともに、スポーツ施設を中核とした市民活動の活性化を図るなど、スポーツ都市横浜の実現に向けて、まちのにぎわいや活力を創出します。

4 文化芸術創造都市施策の推進

次世代を担う子どもたちの豊かな創造性や感性を育むための文化芸術体験機会の更なる充実を図るとともに、各文化施設における共生社会実現への取組や、市民の皆様が文化芸術活動に取り組む環境整備を進め、心豊かな市民生活の実現に寄与します。

また、多彩なアートイベントや文化施設等の運営による魅力の発信、歴史的建造物等の活用を通じたにぎわいの創出等、文化芸術創造都市施策を推進することで、都市のプレゼンス向上につなげるとともに、創造性を生かしたまちづくりを郊外部に広げ、地域コミュニティの活性化を進めます。

さらに、文化芸術創造都市の将来像を描く基本計画として「横浜未来の文化ビジョン(仮称)」の策定を進めます。

II 令和7年度 にぎわいスポーツ文化局 主要事業

1 大規模イベント等を契機とした回遊性向上・宿泊促進

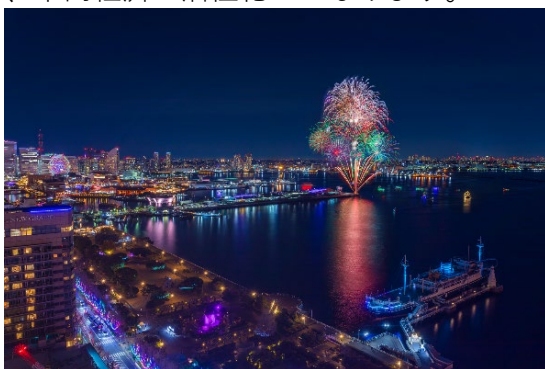
戦略的にぎわい創出事業

2億9,027万円（前年度：3億502万円） p.27

▶大規模イベント等を活用した戦略的回遊性向上・宿泊促進

都心臨海部の水際線の魅力やポテンシャルを最大限引き出すなど、公共空間等を積極的に活用したにぎわいづくりに取り組むとともに、地元企業や商店街・団体等が実施主体となる横浜の歴史と魅力を生かした大規模イベントの開催を支援します。

また、音楽アリーナの集積等を契機に、コンサート、エンターテインメント、スポーツなどの多くの来街者が集まるイベントを活用し、イベント主催者や商業施設等の民間事業者と連携することで戦略的な回遊性向上・宿泊促進策に取り組み、更なるにぎわいを創出し、市内経済の活性化につなげます。



【横浜ナイトフラワーズ】



【コンサート連携による回遊施策】



【山下公園通り歩行者天国】



【パウ・パトロール連携イベント】

©2025 &TM Spin Master Ltd. All rights reserved. © 2025 Viacom.

▶eスポーツを活用したにぎわい創出

世界中が注目する急成長分野であるeスポーツを活用し、大規模大会の開催支援等を行うことで、更なるにぎわいを創出します。

eスポーツは、国籍・性別・年齢・障害の有無等に関わらず、誰もが参加できるという特徴があります。この特徴を生かし、eスポーツを通じた交流促進による、地域コミュニティの活性化につなげます。



【eスポーツ体験イベント】

フェスティバルによるにぎわい創出事業

1億8,082万円（前年度：1億8,082万円） p.27

集積する音楽施設や大規模イベントと連携した発信力のあるコンテンツ、公共空間・オープンスペースを活用した街なか展開、次世代育成や市民参加の取組など、幅広い世代が楽しめる音楽を中心としたライブエンターテインメントのフェスティバルを開催し、回遊性の向上を通じたより一層のまちのにぎわい創出につなげます。

開催概要

開催時期：秋頃（予定）

ジャンル：音楽を中心としたライブエンターテインメント

（ダンス・スポーツ・アニメコンテンツなどのジャンルを幅広く含む）



【大規模イベントとの連携】



【市内中学校吹奏楽部と横浜市消防音楽隊によるコンサート】

撮影：大野隆介

創造的イルミネーション事業

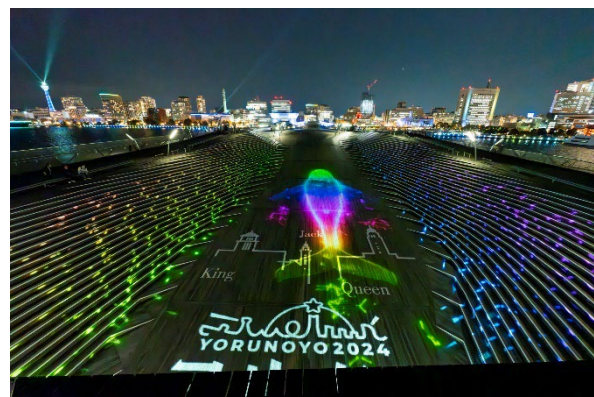
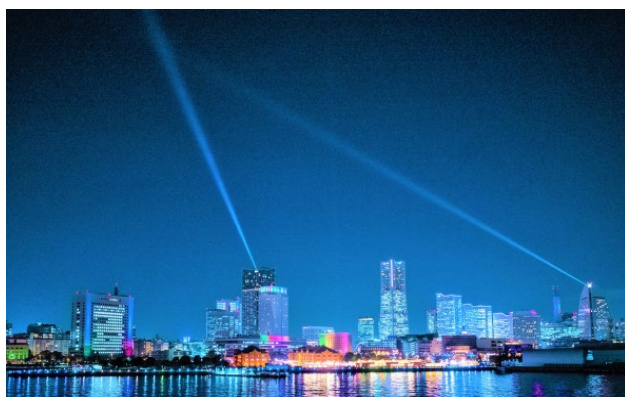
3億6,000万円（前年度：3億6,000万円） p.27

都心臨海部の各地域のイルミネーションイベントと連携し、まちぐるみで回遊性の向上を図るとともに、まち全体が一体となった光と音楽で躍動するスペクタクルショーなど、先端技術を用いた壮大な演出により、開港以来、築き上げてきた都市景観を磨きあげ、横浜ならではの美しい魅力的な夜景を創出し、滞在時間の延長を通じた、にぎわいづくりにつなげます。

開催概要

開催時期：冬頃（予定）

会場：都心臨海部一带



【まち全体の光の演出風景〈ヨルノヨ〉】

2 観光・MICEの振興

(1) 持続可能な観光・MICE推進体制の構築と観光・MICE産業の活性化

DMO推進事業

1億1,961万円（前年度：1億2,223万円） p.28

ビッグデータによる人流データの分析やレポートの作成等を行うなど、DMOである横浜市観光協会のマーケティング機能を強化します。

また、DMOが観光・MICEのけん引役として、マーケティング分析を観光施策に生かすとともに、観光地域づくりのワーキング等の開催を通じ、地域や観光事業者など多様な関係者によるデータを活用した事業展開を支援します。



Yokohama City Visitors Bureau

【横浜観光MICEセミナー】

(2) 魅力あふれる観光コンテンツの創出

三溪園施設整備等支援事業

1億8,795万円（前年度：1億8,268万円） p.28

重要文化財建造物の大規模修繕及び耐震対策工事を、緊急度の高い建造物から実施しています。

7年度は、旧矢筈原家（やのはらけ）住宅、旧燈明寺（とうみょうじ）三重塔及び庭園の修繕等に対し、支援します。

また、観光施設としての新たな魅力創出に向けて、正門周辺再整備の検討を進めます。



【旧矢筈原家住宅（重要文化財）】



【旧燈明寺三重塔（重要文化財）】

(3) 戦略的な誘客プロモーション

戦略的誘客プロモーション事業 4億755万円(前年度:2億5,776万円) p.27

▶国内誘客

市内事業者と連携して、記念日等の非日常を楽しむことのできる特別感のあるコンテンツ開発に取り組むとともに、OTA(※1)やメディア、商談会・展示会等を活用したプロモーションを実施し、誘客につなげていきます。

また、冬季閑散期対策も進めることで、回遊性向上・宿泊促進による市内経済の活性化につなげます。



【誘客プロモーション
「YOKOHAMA PRECIOUS FLOWERS」】

▶「花の港」ブランディング事業 <新規>

花をテーマとすることにより、将来のGREEN×EXPO2027への機運醸成と誘客を見据え、DMOである横浜市観光協会と共に、花で演出された周遊モビリティなどの観光コンテンツの創出やプロモーションを通じて、横浜観光の中心である都心臨海部に「花」をテーマとした観光ブランディングを展開します。展開にあたっては観光関連事業者とも連携し、「市内経済活性化」を目的として、まちの一体感の醸成と、観光消費額の増加を促進します。

▶ destinations キャンペーンの推進<新規>

JRグループと地域(都道府県単位)が共同で実施する大型観光キャンペーンに向け、推進組織の設置、観光資源の開発及びプロモーション素材の制作等を神奈川県と共に進め、GREEN×EXPO2027や都心臨海部を拠点とした、広域的な回遊性向上につなげます。

▶海外誘客

海外OTA(※1)と連携したデジタルプロモーション、観光レップ(※2)等による現地旅行会社等へのセールス・プロモーション、商談会・展示会への参加、SNSの活用など、アジアや米国等の対象国に合わせた戦略的なプロモーションを実施することで、インバウンドの誘客及び市内宿泊を促進します。あわせて、各種プロモーション機会を活用し、海外でのGREEN×EXPO2027の認知度向上を図ります。

また、クルーズ・フレンドリー・プログラムを引き続き実施し、クルーズ旅客等の市内回遊性向上を図ります。

(※1) OTA(オンライントラベルエージェント): ホテル、航空券、国内外旅行の予約など、インターネット上だけで取引を行う旅行会社。

(※2) 観光レップ(rep): 英語の Representative の略。代理店の意味合い。自治体や事業者の代理を旅行会社や広告代理店等に委託し、現地の海外旅行市場の調査分析や観光情報の発信等を行う。

(4) グローバルMICE都市としての競争力強化と魅力向上

MICE誘致・開催支援事業 3億5,806万円（前年度：2億4,021万円） p.28

▶MICEマーケティング

市内のMICE開催状況やターゲット会議のリサーチ・分析等、MICEマーケティングを進め、市内関連事業者と共有することで、誘致の推進と経済効果の拡大を図ります。

▶MICE誘致

MICE商談会でのセールス活動や視察受入を強化するとともに、新たなMICEの誘致・開催を計画する研究者等を支援することで、新規案件の開拓とキーパーソンとのネットワーク構築を進め、MICE誘致を加速します。

▶MICE開催支援・受入環境整備

MICE主催者や参加者の行動実態に基づくプロモーションにより、横浜ならではの回遊ツアーや体験型コンテンツ等の利活用を促すことで、アフターコンベンションによる参加者の回遊性の向上を通じた消費拡大に取り組むほか、セミナー開催等による市内MICE関連産業の育成や商談会の実施など、市内事業者のビジネス機会の創出につなげます。

また、パシフィコ横浜の搬出入等車両待機スペースの一部拡幅工事を実施し、待機スペースの不足を解消します。

▶政府系国際会議誘致・開催支援

各区局で行う国際会議の誘致・開催支援活動等に対して、ノウハウの提供やブース出展への支援など、様々な形でサポートを行います。

また、市内大学生向けにMICE業界の魅力を発信し、次世代育成とMICE産業の活性化を目指します。



【「生物多様性国際ユース会議 in 横浜 2024」
6年8月 於：パシフィコ横浜】



【「IEEE ロボット工学とオートメーションに関する会議2024」6年5月 於：パシフィコ横浜】

20 街区MICE施設整備運営事業

33億5,287万円（前年度：33億241万円） p.29

「パシフィコ横浜ノース」について、PFI事業により維持管理及び運営を行います。

新たな顧客開拓・市場創出に取り組み、にぎわい創出・市内経済の活性化に貢献します。



【パシフィコ横浜ノース 外観】

3 スポーツ環境の充実

(1) スポーツに親しむ環境づくり

子ども・子育て世代のスポーツ活動支援事業

1,776 万円(前年度:1,584 万円) p.25

▶学校訪問事業

児童生徒を対象としたパラアスリート等による学校訪問を実施し、子どものスポーツ活動を促進します。



【パラアスリートによる学校訪問】

▶子育て世代のスポーツ活動支援事業

託児サービス付きイベントに加え、民間事業者等と連携して親子で共に楽しめるイベントの実施手法や内容を拡充することで、子育て世代が気軽に安心してスポーツに取り組める環境を作ります。



【親子で共に楽しめるスポーツ体験会】

市民参加型スポーツ推進事業

925 万円(前年度:1,311 万円) p.25

「ビーチスポーツフェスタ」等、広く市民がスポーツ競技に参加できる大会やイベントの開催を支援し、身近な場でスポーツに親しめる環境づくりを推進します。



【ビーチスポーツフェスタ】

横浜マラソン開催事業 《拡充》

1 億 890 万円(前年度:1 億 120 万円) p.25

子どもから大人まで誰もが参加でき、「する」「みる」「ささえる」全ての人を楽しめる大会を開催することで、市民の健康を増進するとともに、まちのにぎわいを創出します。

また、国外に向けたプロモーション、ランナーサービスの向上や受入環境の整備などの取組により、国外在住ランナーの参加者数の拡大を図ります。



【横浜マラソン 2024】

【横浜マラソン 2025】

開催概要

日程：7 年 10 月 26 日(日)

場所：横浜ランドマークタワー前(スタート)～横浜南部市場前(折り返し)
～首都高速湾岸線～臨港パーク(フィニッシュ)

(2) スポーツを通じた共生社会の実現

インクルーシブスポーツ推進事業

1,300 万円(前年度:1,349 万円) p.25

▶地域・イベント等におけるインクルーシブスポーツ推進事業

18 区でのインクルーシブなスポーツ体験会・交流会の実施や YOKOHAMA スポーツ・レクリエーションフェスティバルの開催等を通じて、年齢や障害の有無などにかかわらず、誰もが共にスポーツを楽しめる機会を創出します。

▶パラスポーツ競技力向上事業

横浜市スポーツ協会、横浜市リハビリテーション事業団が伴走型支援を行い、各競技団体が主体となって行うパラスポーツ競技力向上の取組を推進していきます。



【YOKOHAMA スポーツ・レクリエーションフェスティバル】



【パラスポーツ競技力向上事業
(車いすテニス体験会)】

(3) 大規模スポーツイベントの誘致・開催等による地域経済活性化

大規模スポーツイベント等開催支援事業

9,863 万円(前年度:1 億 44 万円) p.26

「2025 世界トライアスロン横浜大会」をはじめとする、大規模スポーツイベントの誘致・開催支援等を行うことで、トップアスリートの競技を観戦できる機会を創出します。

また、観戦前後の回遊性向上策を通じ、まちのにぎわいや地域経済の活性化につなげます。



© Shugo TAKEMI/Japan Triathlon Media
【2024 世界トライアスロン横浜大会】



【第 39 回皇后盃全日本女子柔道選手権大会】

トップスポーツチーム連携事業

768 万円（前年度：640 万円） p.26

横浜を本拠地とする 13 のトップスポーツチームとの連携・協働体制である「横浜スポーツパートナーズ」を通じて、スポーツ教室や広報紙の発行を継続し、にぎわい創出にもつながるイベントを、規模を拡大して実施します。

また、チームと連携し、独自のふるさと納税返礼品を提供します。



【トップスポーツチームによる
スポーツ体験】

スポーツボランティア育成事業

509 万円（前年度：514 万円） p.26

横浜市スポーツ協会が運営する「横浜市スポーツボランティアセンター」を通じてボランティアの発掘・育成・活動機会の創出に向けた取組を推進します。

また、横浜市スポーツ協会や競技団体が開催する講習会等を通じて地域のスポーツ人材育成を推進します。



© Shugo TAKEMI/Japan Triathlon Media
【2024 世界トライアスロン横浜大会】

（4）スポーツ施設を中核とした地域活性化

スポーツ施設管理運営事業

17 億 1,603 万円（前年度：27 億 1,341 万円） p.26

▶指定管理施設等管理運営事業、保守・点検・修繕事業、空調設備設置事業

横浜国際プール、平沼記念体育館、たきがしら会館及び屋内プール 5 施設（港南・保土ヶ谷・旭・金沢・都筑プール）の維持管理・運営を行うほか、各区スポーツセンター等について、空調設置工事及び必要な施設修繕を実施します。

▶LED 化推進事業 <<新規>>

スポーツ施設の照明等への ESCO 事業の運用及び LED 化工事を計画的に進め、省エネルギーに取り組みます。

屋外プール再整備事業

2 億 9,358 万円（前年度：2 億 8,218 万円） p.26

本牧市民プールを運営するとともに、横浜プールセンターの検討に当たっては、財政ビジョン等を踏まえつつ、広く市民や事業者の皆様のご意見も伺いながら進めていきます。



【本牧市民プール】

横浜国際プール再整備事業 <<新規>>

5,000 万円（前年度：1,000 万円） p.26

横浜国際プールは供用開始から 25 年以上が経過し、大規模な設備等の更新が必要となっています。この機会を捉え、次世代を育む複合型スポーツアリーナを目指し、再整備事業を進めていきます。

4 文化芸術創造都市施策の推進

(1) 文化芸術を通じた次世代育成の取組

子どもの文化体験推進事業

4,494 万円（前年度：4,494 万円） p.23

▶子どもの文化体験推進事業

子どもたちが身近な場所における文化体験を通じて、表現力やコミュニケーション力を育めるよう、地域の子どもたちに、音楽や美術などの文化プログラムを提供します。

7年度は、放課後キッズクラブに加えて、放課後児童クラブ等、他の子どもの居場所も対象とします。

▶芸術文化教育プログラム推進事業

次世代を担う子どもたちの表現力やコミュニケーション力、創造力等を育成するため、学校にアーティストを派遣し、子どもたちが音楽・演劇・ダンス・美術・伝統芸能等を体験できる教育プログラムを実施します。

NPO法人や市内文化施設等が、学校の先生とアーティストのコーディネートを担当することで、各学校の希望に沿った効果的なプログラムの実施を支援します。



【笹野台小学校：伝統芸能のプログラムの様子】

(2) 文化芸術によるまちのにぎわいの創出と国内外への発信

創造都市推進事業

7,740 万円（前年度：7,610 万円） p.22

国際的なアートフェアをはじめとした民間の文化イベントとの連携を通じて、来街者の回遊性向上を図り、まちのにぎわいづくりにつなげます。

また、国内外の舞台芸術関係者によるプログラムの制作・発表、交流の場「横浜国際舞台芸術ミーティング (YPAM)」や、日本最大規模のジャズフェスティバルである「横濱 JAZZ PROMENADE」を開催し、横浜発の文化芸術を発信することで、にぎわいを創出し、都市のプレゼンス向上につなげます。



【YPAM2024 の公演の様子】
撮影：前澤秀登

(3) 歴史と創造性を生かしたまちづくり

創造限界形成事業

2億4,672万円（前年度：2億8,632万円） p.22

歴史的建造物や公共空間等、都心臨海部の地域資源を創造限界拠点として活用し、創造的な活動や地域との連携を通したまちづくりを進めます。旧第一銀行横浜支店、新高島駅地下1階展示場については、新たな事業者による運営が開始されます。

また、都心臨海部で培った創造性を生かしたまちづくりのノウハウを生かし、郊外部においても地域コミュニティの活性化につながる取組を進めます。

【創造限界拠点】

旧第一銀行横浜支店、地域再生まちづくり（初黄・日ノ出町地区）、急な坂スタジオ（旧老松会館）、象の鼻テラス、THE BAYS（旧関東財務局横浜財務事務所）、新高島駅地下1階展示場



【旧第一銀行横浜支店】

工芸を中心としたギャラリーやカフェ、シェアオフィスやラウンジの複合施設として7年夏頃にオープン予定



【象の鼻テラス】 撮影：Hajime Kato

(4) 市民の文化芸術活動への支援と環境整備

横浜未来の文化ビジョン（仮称）策定事業 《新規》

1,000万円（前年度：－万円） p. 24

データドリブンプロジェクトの検討結果や、子育て支援など本市の重要施策を踏まえ、これまで取り組んできた文化芸術創造都市施策を発展させ、概ね10年後の横浜の文化の将来像である「横浜未来の文化ビジョン」（仮称）を新たに策定します。市民の皆様が、市民生活における文化的豊かさを実感し、住みたい・住み続けたいまちと感じていただくことを目的とします。

地域文化サポート事業

2,800万円（前年度：2,800万円） p. 23

横浜市内で実施される地域課題の解決にアプローチする文化芸術活動を広く公募し、支援することで、文化芸術の持つ創造性を生かして、地域コミュニティの活性化に寄与します。

また、季刊誌「ヨコハマアートサイト」の発行やウェブサイト・実施レポート等による広報、まちづくり等、さまざまな分野と文化芸術の関わりについての意見交換を行う研修等を通して、参加団体をサポートします。



【まちなか立寄楽団】

中区寿町で高齢者や障害者など多様な人が参加する「たちよってつくるコンサート2024」の様子

文化施設運営事業

32億806万円（前年度：34億5,373万円） p.23

横浜美術館、横浜みなとみらいホール、関内ホール、横浜にぎわい座等、計15の文化施設において、市民の皆様が文化芸術に触れる機会の充実を図るとともに、次世代を担う子どもたちが多様な文化芸術に親しめるよう施設運営を行います。あわせて、質の高い公演等を実施し、横浜の魅力を内外へ発信します。

また、市民の皆様が施設を安全・安心に利用できるよう老朽化等対応の修繕を実施するほか、施設照明をLED化し、省エネルギーに取り組みます。



【横浜美術館外観（撮影：新津保建秀）】

文化施設整備事業

9,707万円（前年度：47億9,570万円） p.24

市民の皆様が身近に文化芸術に接し、幅広い分野の文化芸術活動を活発に行うことができるよう、地域特性等に応じて区民文化センターを整備します。

7年度は、引き続き金沢区における区民文化センターの実施設計を行い、9年度中のしゅん工・オープンに向けて工事に着手します。



【金沢区民文化センター（仮称）完成イメージ】

横浜能楽堂大規模改修事業

23億2,640万円（前年度：4億3,819万円） p.24

利用者の安全を確保するため、客席の天井の耐震化に向けた工事に加え、電気、空調、衛生設備等の長寿命化を図ります。7年度中の完了を目指し、改修工事を行います。

なお、工事による休館期間中は事務所を移転し、アウトリーチ事業等を実施しています。

工事概要

工事期間：6年2月～7年度中
総工事費：約29億円



【横浜能楽堂本舞台「旧染井能舞台」】

トピックス①

脱炭素社会の実現や GREEN×EXPO 2027 に向けた取組

◆創造的イルミネーション事業 p.27

風力発電や太陽光発電など再生可能エネルギーを活用してイベントを実施します。また、6年度に実施した廃食用油を燃料としたバイオ燃料発電機の使用による CO₂ 排出削減等にも取り組みます。これらの取組やカーボン・オフセットを併用することでイベント中に発生する CO₂ においては、実質排出量ゼロを目指します。

◆デスティネーションキャンペーンの推進 【再掲】 p.7、27

(戦略的誘客プロモーション事業の一部)

JRグループと地域（都道府県単位）が共同で実施する大型観光キャンペーンに向け、推進組織の設置、地域の観光資源の開発及びプロモーション素材の制作等を神奈川県と共に進め、GREEN×EXPO 2027 や都心臨海部を拠点とした、広域的な回遊性向上につなげます。

◆花の港ブランディング事業 【再掲】 p.7、27

(戦略的誘客プロモーション事業の一部)

花をテーマとすることにより、将来の GREEN×EXPO 2027 への機運醸成と誘客を見据え、DMO である横浜市観光協会と共に、横浜観光の中心である都心臨海部で「花」をテーマとした観光ブランディング事業を展開します。

◆横浜マラソンにおける取組 p.25

(横浜マラソン開催事業の一部)

協賛パートナーと連携したペットボトルの水平リサイクル、再生ポリエステルを使用した参加賞Tシャツの制作、大会運営車両への電気自動車の活用取組とともに、大会運営にカーボン・オフセットを



【参加賞Tシャツを着用したランナー】



【排出ガスゼロの大会運営車両】

取り入れるなど、環境負荷の軽減に向けた取組を実施します。

◆世界トライアスロン横浜大会における取組 p.26

(大規模スポーツイベント等開催支援事業の一部)

世界トライアスロン横浜大会では、昨年に引き続き、協賛パートナーと連携したペットボトルの水平リサイクルに加え、新たに紙コップリサイクルを実施します。

また、参加者等から集めた協力金でブルーカーボンクレジットを購入し、カーボン・オフセットを実施します。

◆スポーツ、文化施設における取組 【再掲】 p.11、14、23、26

スポーツセンター、区民文化センター等の施設において、照明の LED 化や太陽光発電設備の設置等により、省エネルギー化を図ります。

◆フェスティバルによるにぎわい創出事業 p.27

子ども達たちが初めて楽器に触れる機会やダンス・アーバンスポーツの体験機会の提供、小中高生や子ども向けワークショップの実施、日頃の練習の成果をフェスティバルで披露する場を設けるなど、次世代を担う子どもたちを育む取組や親子連れの方にもゆったりと滞在できる空間づくりを行い、子ども・子育て世代の方にも楽しめるフェスティバルを目指しています。

◆MICE次世代育成事業 p.28

(MICE誘致・開催支援事業の一部)

国際会議等の開催に合わせ、子どもたちを対象に最先端の技術や情報に触れられる講演やワークショップ等を開催することで、専門性の高い内容を楽しく学ぶ機会を提供します。また、次世代育成とMICE産業の活性化を目指し、市内大学生向けにMICE業界の魅力を発信します。

◆子ども・子育て世代のスポーツ活動支援事業【再掲】 p.9、25

働く世代・子育て世代のスポーツ実施率が他の年代と比べて低いため、商業施設等の子育て世代にとって身近な場所で、託児サービス付きイベントや親子で共に楽しめるイベントを民間事業者等と連携して実施します。

また、スポーツを通じた共生社会の実現に向け、競技団体等と連携し、車いすバスケットボールやブラインドサッカー、義足選手による陸上教室といったパラアスリートによる学校訪問を実施します。



【親子で共に楽しめるスポーツ体験会】

◆クラシック・ヨコハマ推進事業 p.23

若手演奏家に演奏機会を提供することを目的とし、国内最高峰の学生音楽コンクール「全日本学生音楽コンクール全国大会 in 横浜」における横浜市民賞（聴衆賞）の受賞者を、市内のミュージアムや個人サロン、市役所アトリウムなどに招き、コンサートを実施します。

◆子どもの文化体験推進事業【再掲】 p.12、23

子どもたちが身近な場所における文化体験を通じて、表現力やコミュニケーション力、創造力を育めるよう、地域の子どもたちが集まる放課後キッズクラブ等で音楽や美術などのプログラムを実施します。さらに、学校にアーティストを派遣し、子どもたちが音楽・演劇・ダンス・美術・伝統芸能等を体験できる教育プログラムを実施します。



【中和田南小 音楽プログラム】
(芸術文化教育プログラム推進事業)

◆文化施設運営事業 p.23

文化施設では、子どもと保護者が一緒に描いたりつくったりすることを楽しみながら、自発的な意欲を育むことを目的とした「みんなのフリーゾーン」を横浜美術館にて行うほか、「こどもの日コンサート」において、中学生がプロデューサーとなり、コンサート制作のさまざまな業務を行う取組を横浜みなとみらいホールにて行います。

◆ユニバーサルツーリズムの推進 p.28

(受入環境整備事業の一部)

障害の有無や年齢等に関わらず全ての方々が横浜観光を楽しめるよう、観光施設・宿泊施設のバリアフリー対応状況や、子育て世代に求められる授乳室の設置状況、車椅子やベビーカーでも移動しやすいモデルルート等の情報を発信します。

また、市内観光関連事業者向けセミナーを継続し、「心のバリアフリー」の浸透を図ることで、ユニバーサルツーリズムを推進します。

◆地域・イベント等におけるインクルーシブスポーツ推進事業【再掲】 p.10、25

(インクルーシブスポーツ推進事業の一部)

YOKOHAMA スポーツ・レクリエーションフェスティバルの開催等を通じて、日常的に年齢や障害の有無などにかかわらず、誰もが共にスポーツを楽しめる機会を創出します。

また、18区でインクルーシブなスポーツ体験会・交流会を実施し、暮らしに身近な場所でもスポーツを通じた共生社会の実現を推進していきます。



【車いすテニス (YOKOHAMA スポーツ・レクリエーションフェスティバル)】

◆パラスポーツ競技力向上事業【再掲】 p.10、25

(インクルーシブスポーツ推進事業の一部)

各競技団体が継続的にパラスポーツ競技に取り組んでいけるよう、障害のある方を対象とした教室等を実施するとともに、パラスポーツを支える人材を育成するなど、横浜市スポーツ協会、横浜市リハビリテーション事業団による伴走型支援を行います。



【横浜市バトン協会による教室】

◆文化施設における取組 p.23

(文化施設運営事業の一部)

横浜みなとみらいホールでは、視覚に障害のある演奏者と障害のない演奏者が暗闇の中で一緒に演奏するコンサート「ミュージック・イン・ザ・ダーク」を実施します。

横浜能楽堂では、障害の有無にかかわらず、様々な方が一緒に能の謡や所作を体験したり、道具を間近で見たりする「バリアフリーワークショップ」を、他施設との共催により実施します。

横浜市民ギャラリーあざみ野では、高齢者や認知症の方が、その家族や介護者とともに安心して作品鑑賞を楽しめることを目指す「やさしい美術鑑賞プログラム」を実施します。

◆e スポーツを活用したにぎわい創出事業 【再掲】 p.4、27

(戦略的にぎわい創出事業の一部)

世界中が注目する急成長分野である e スポーツを活用し、大規模大会開催等の支援を行うことで、更なるにぎわいを創出します。



【横浜 e スポーツ大会】

◆創造的イルミネーション事業 【再掲】 p.5、27

まち全体が一体となった光と音楽で躍動するスペクタクルショーでは、IoT を活用し、複数のビル等に設置した照明を遠隔地からインターネットにより操作できる先端技術を導入することで、まちの施設照明を連動させる演出を実現しています。

また、人気アニメコンテンツと連携した AR フォトラリーや、デジタルスタンプラリーを実施することで、まち全体への回遊性向上を図ります。

◆観光分野における取組 【再掲】 p.6、28

(DMO推進事業、観光振興事業及び受入環境整備事業の一部)

観光施策の立案や観光事業者などがデータを活用した事業を展開するために、ビッグデータ等のデジタルデータを活用したマーケティング分析を行います。

さらに、新横浜駅において AI チャット Bot を活用し、来訪者にとって利便性の高い観光情報を提供します。

◆M I C E 分野における取組 p.28

(M I C E 誘致・開催支援事業の一部)

主催者・参加者双方の来訪意欲を喚起するため、現地でしか体験できない横浜ならではのプログラムや開催地としての魅力を紹介する WEB コンテンツの拡充やオンライン広告、SNS での情報発信等、デジタルプロモーションを強化します。

◆スポーツ分野における取組 【再掲】 p.10、26

(大規模スポーツイベント等開催支援事業の一部)

大規模スポーツイベント観戦者向けにスタンプラリーや謎解きイベント等のデジタルコンテンツを提供することで、市内回遊の向上や、地域経済の活性化につなげます。

また、参加者データを分析し、今後の効果的な回遊性向上策に生かします。

◆文化施設における取組 p.23

(文化施設運営事業の一部)

横浜美術館では、来館しなくても収蔵作品の魅力に触れられるよう、画像をデジタルデータ化し、ウェブサイトで公開した作品のうち約 100 点について、日英両語で解説を加えます。

また、大佛次郎記念館では、所蔵品検索システムをリニューアルし、所蔵品約 3,000 点の画像をウェブ公開しました。

◆横浜の歴史と魅力を生かした大規模イベント開催支援の取組【再掲】 p.4、27

(戦略的にぎわい創出事業の一部)

地元企業や商店街、団体等が実施主体となる、横浜の歴史と魅力を生かした大規模イベントの開催を支援し、まちのにぎわい創出に取り組めます。



【ザよこはまパレード】

◆e スポーツを活用したにぎわい創出事業 【再掲】 p.4、27

(戦略的にぎわい創出事業の一部)

市民の方々がeスポーツに触れることのできる様々な機会を創出し、eスポーツを通じた交流促進による、地域コミュニティの活性化に取り組めます。

◆地域スポーツ団体の活動に対する取組 p.25

(スポーツ関係団体支援事業の一部)

生涯スポーツの普及・振興を図るため、市民の健康増進、体力向上等、地域のスポーツ振興のために活躍している横浜市スポーツ協会、横浜市スポーツ推進委員連絡協議会、横浜市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会等の活動を支援します。



【総合型地域スポーツクラブの活動】

◆ヨコハマアートサイトにおける取組 【再掲】 p.13、23

(地域文化サポート事業の一部)

文化芸術の持つ創造性を生かして、地域コミュニティの活性化に寄与するため、横浜市内で実施される地域課題の解決にアプローチする文化芸術活動を広く公募し、支援します。



【あおばりあふりーコンサート 2024】

◆文化施設における取組 p.23

(文化施設運営事業の一部)

関内ホールでは「あいすくりーむ発祥記念イベント」「馬車道まつりアートフェスタ」など、馬車道商店街、地元企業、地域の大学と連携したイベントを開催します。

また、横浜にぎわい座では、50回目の記念開催となる「野毛大道芸」について、全館をあげて共催するなど、各施設とも地域のにぎわい創出に取り組めます。

◆地域コミュニティ活性化に向けた創造性を生かした取組 【再掲】 p.13、22

(創造界隈形成事業及びアーツコミッション事業の一部)

都心臨海部で培った創造性を生かしたまちづくりのノウハウを、地域コミュニティの活性化に生かします。アーティストが地域の拠点等に滞在し、リサーチや創作活動等を行うほか、身近な地域の魅力の発信や交流を目的とした取組を実施します。



【撮影：アーツコミッション・ヨコハマ】

III 令和7年度にぎわいスポーツ文化局 予算案総括表

(単位：千円)

科 目	7年度 予算額	6年度 予算額	差 引 増△減	前年 比 (%)	主 な 増 減 事 業
4 款 にぎわい スポーツ文化費	18,057,676	21,878,260	△ 3,820,584	△ 17.5	
1 項 にぎわい スポーツ文化費	18,057,676	21,878,260	△ 3,820,584	△ 17.5	
1 目 にぎわい 総 務 費	1,458,592	1,445,676	12,916	0.9	<ul style="list-style-type: none"> ・職員人件費 13,916千円増 ・調査分析事業 1,000千円減
2 目 文化芸術創造 都市推進費	6,239,654	9,500,896	△ 3,261,242	△ 34.3	<ul style="list-style-type: none"> ・文化施設整備事業 4,698,626千円減 ・文化施設運営事業 245,667千円減 ・横浜美術館大規模改修事業 175,200千円減 ・横浜能楽堂大規模改修事業 1,888,210千円増
3 目 スポーツ 振 興 費	4,816,298	5,706,734	△ 890,436	△ 15.6	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ施設管理運営事業 997,378千円減 ・横浜プールセンターPCB処理事業 43,743千円増
4 目 にぎわい 観光MICE 振 興 費	5,543,132	5,224,954	318,178	6.1	<ul style="list-style-type: none"> ・戦略的誘客プロモーション事業 149,794千円増 ・MICE誘致・開催支援事業 117,850千円増 ・20街区MICE施設整備運営事業 50,460千円増

IV 予算科目別内訳

1	4 款 1 項 1 目 にぎわい 総務費	本年度 千円	前年度 千円	差引 千円	本年度の財源			
					国・県 千円	市 債 千円	その他 千円	一般財源 千円
		1,458,592	1,445,676	12,916	—	—	30	1,458,562

総務部

- (1) 調査分析事業 **3,100千円** (前年度 4,100千円)
 横浜市民のスポーツや文化芸術活動への参加状況等や文化芸術創造都市施策の浸透度など、生活行動の実態を調査し、施策検討の基礎資料とします。
- (2) 開港記念式典開催事業 **5,680千円** (前年度 5,680千円)
 開港記念日（6月2日）に市民と市政関係者が共に、横浜港の歴史と先人の業績に敬意を表し、開港を祝う式典を開催します。
- (3) 総務費 **14,385千円** (前年度 14,385千円)
 にぎわいスポーツ文化局職員の人材育成事業などを実施します。
- (4) 職員人件費 **1,435,427千円** (前年度 1,421,511千円)
 にぎわいスポーツ文化局職員の人件費

2	4 款 1 項 2 目 文 化 芸 術 創 造 都 市 推 進 費	本年度 千円	前年度 千円	差引 千円	本年度の財源			
					国・県 千円	市 債 千円	その他 千円	一般財源 千円
		6,239,654	9,500,896	△3,261,242	67,129	2,416,000	119,759	3,636,766

文化芸術創造都市推進部

- (1) **創造界隈形成事業** **246,722千円** (前年度 286,316千円)
 歴史的建造物や公共空間等、都心臨海部の地域資源を活用した創造界隈拠点として、旧第一銀行横浜支店、地域再生まちづくり（初黄・日ノ出町地区）、急な坂スタジオ（旧老松会館）、象の鼻テラス、THE BAYS（旧関東財務局横浜財務事務所）、新高島駅地下1階展示場の運営・管理を行い、創造的な人材や地域との連携を通じたまちづくりを進めます。旧第一銀行横浜支店、新高島駅地下1階展示場については、新たな事業者による運営が開始されます。
 また、都心臨海部で培った創造性を生かしたまちづくりを郊外部でも展開していきます。
- (2) **アーツコミッション事業** **37,156千円** (前年度 37,691千円)
 文化芸術と企業・市民等の様々な主体をつなぐプラットフォームを形成し、子育て世代をはじめとした市民が文化芸術に触れる機会をつくるとともに、都心臨海部の回遊性向上等を進め、文化芸術の持つ創造性を生かしたにぎわいづくりと国内外における都市としてのプレゼンスを高めます。
- (3) **横浜トリエンナーレ事業** **51,367千円** (前年度 59,070千円)
 第9回展開催（2027年を予定）に向け、アーティストック・ディレクター選考や作家調査を行うほか、まちなか展示等の企画、広報プロモーション計画の策定などの準備を着実に進めます。
- (4) **映像文化都市づくり推進事業** **27,832千円** (前年度 17,832千円)
 市内に立地する東京藝術大学大学院映像研究科が有する高度な映像表現知識・技術を活用した市民向けの地域貢献事業を引き続き実施することで、映像文化における次世代育成等を推進します。
 また、横浜国際映画祭の開催に向けた支援を行います。
- (5) **創造都市推進事業** **77,399千円** (前年度 76,099千円)
 国際的アートフェア等との連携を通じ、来街者の回遊性の向上や、まちなぎわい創出につなげます。
 また、国内外の舞台芸術関係者によるプログラムの制作・発表、交流の場として「横浜国際舞台芸術ミーティング（YPAM）」を開催し、都心臨海部の活性化を図るとともに、横浜発の舞台芸術を発信することで、都市のプレゼンスを高めます。
 日本最大規模のジャズフェスティバルである「横濱JAZZ PROMENADE」の開催を引き続き支援します。
- (6) **日中韓都市間文化交流事業** **7,360千円** (前年度 7,360千円)
 「東アジア文化都市 友好協力都市協定」に基づき、中国泉州市及び韓国光州広域市と、アーティストや芸術団体の派遣・招へい等を通じた都市間文化交流を行います。

(7) 子どもの文化体験推進事業 **44,940千円** (前年度 44,940千円)

より多くの子どもたちが身近な場所における文化体験を通じて、表現力やコミュニケーション力、創造力を育めるよう、地域の子どもたちが集まる放課後キッズクラブや放課後児童クラブ、児童養護施設などで音楽や美術などのプログラムを実施します。(実施予定プログラム数 72件)

また、学校にアーティストを派遣し、子どもたちが音楽・演劇・ダンス・美術・伝統芸能等を体験できる教育プログラムを実施します。(実施予定学校数 129校)

(8) 地域文化サポート事業 **28,000千円** (前年度 28,000千円)

横浜市内各地で実施される、市民・文化団体が実施する、地域課題の解決にアプローチする文化芸術活動を広く公募し、支援することで、文化芸術の持つ創造性を生かして、地域コミュニティの活性化に寄与します。(採択予定数 30件)

また、季刊誌「ヨコハマアートサイト」の発行やウェブサイト・実施レポート等による広報、まちづくり等さまざまな分野と文化芸術の関わりについての意見交換を行う研修等を通して、参加団体をサポートします。

(9) クラシック・ヨコハマ推進事業 **9,000千円** (前年度 9,000千円)

国内最高峰の学生音楽コンクール「全日本学生音楽コンクール全国大会（R7年11月27日～12月3日）」の開催に合わせ、コンクール出場経験者をはじめとした若手演奏家に演奏機会を提供すること及び市民の皆様が身近な場所で音楽を楽しんでいただくことを目的として、市内の様々な会場でクラシック音楽のコンサートを実施します。

また、コンクールでは、市民の皆様が選ぶ聴衆賞「横浜市民賞」を贈呈します。

(10) 芸術文化支援事業 **50,100千円** (前年度 53,100千円)

音楽、美術、舞台芸術などの分野において、市内の文化芸術活動の基盤となる文化事業(神奈川フィルハーモニー管弦楽団の定期演奏会等)を支援します。

また、横浜フランス映画祭の開催を支援します。

(11) 文化施設運営事業 **3,208,059千円** (前年度 3,453,726千円)

横浜美術館、横浜みなとみらいホール、関内ホール、横浜にぎわい座等の文化施設の運営及び修繕等を行います。

○ 横浜美術館運営費	807,112千円
○ 横浜みなとみらいホール運営費	537,391千円
○ 横浜能楽堂運営費	172,621千円
○ 横浜にぎわい座運営費	235,377千円
○ 関内ホール等文化施設運営費	1,060,416千円
○ 文化施設修繕費等	395,142千円

(12) **横浜能楽堂大規模改修事業** **2,326,395千円** (前年度 438,185千円)
利用者の安全を確保するため、客席の天井の耐震化に向けた工事に加え、電気、空調、衛生設備等の長寿命化を図ります。

7年度中の完了を目指し、改修工事を行います。

なお、工事による休館期間中は事務所をランドマークプラザに移転し、能・狂言の紹介を行うとともに、アウトリーチ事業等を実施しています。

(13) **文化施設整備事業** **97,074千円** (前年度 4,795,700千円)
市民の皆様が身近に文化芸術に接し、幅広い分野の文化芸術活動を活発に行うことができるよう、地域特性等に応じて区民文化センターを整備します。

7年度は、引き続き金沢区における区民文化センターの実施設計を行い、9年度中のしゅん工・オープンに向けて工事に着手します。

○ 区民文化センター整備

・金沢区（金沢八景駅）：実施設計、工事費等 **97,074千円**

(14) **横浜未来の文化ビジョン（仮称）策定事業** **10,000千円** (前年度-)
データドリブンプロジェクトの検討結果や、子育て支援など本市の重要施策を踏まえ、これまで取り組んできた文化芸術創造都市施策を発展させ、概ね10年後の横浜の文化の将来像である「横浜未来の文化ビジョン」(仮称)を新たに策定します。市民の皆様が、市民生活における文化的豊かさを実感し、住みたい・住み続けたいまちと感じていただくことを目的とします。

(15) **その他の文化振興事業** **18,250千円** (前年度 18,677千円)
横浜文化賞の贈呈、指定管理者の選定・評価等を実施します。
その他、課内業務を効率的に遂行するための事務費です。

【終了事業】

(横浜美術館大規模改修事業) (前年度 175,200千円)

3	4 款 1 項 3 目 ス ポ ー ツ 振 興 費	本年度 千円	前年度 千円	差引 千円	本年度の財源			
					国・県 千円	市 債 千円	その他 千円	一般財源 千円
		4,816,298	5,706,734	△890,436	—	758,000	94,500	3,963,798

スポーツ振興部

- (1) **スポーツ関係団体支援事業** **413,153千円** (前年度 426,867千円)
横浜市スポーツ推進委員連絡協議会や横浜市スポーツ協会をはじめとするスポーツ団体等との連携・協働により、誰でも身近な場所で気軽にスポーツを楽しむ環境をつくります。
- (2) **子ども・子育て世代のスポーツ活動支援事業** **17,761千円** (前年度 15,837千円)
子どものスポーツ活動を促進するため、児童生徒を対象としたラグビーやインクルーシブスポーツ等の体験会を実施するほか、働く世代・子育て世代が気軽に安心してスポーツに取り組めるよう、託児サービスの提供や親子で共に楽しめるイベント等を開催します。
- (3) **スポーツ推進審議会費** **2,329千円** (前年度 1,938千円)
スポーツの推進について審議するため、外部有識者で構成するスポーツ推進審議会を開催します。
- (4) **学校施設への夜間照明設置事業** **61,973千円** (前年度 60,207千円)
スポーツをする場を拡充し、地域で気軽にスポーツに親しむ機会を創出するため、都筑区中川中学校校庭へ夜間照明を設置します。
- (5) **市民参加型スポーツ推進事業** **9,249千円** (前年度 13,109千円)
市民が身近な場所でスポーツに親しめる環境づくりを推進するため、市民参加型スポーツイベントを実施します。
- (6) **横浜マラソン開催事業** **108,902千円** (前年度 101,200千円)
子どもから大人まで誰もが参加でき、「する」「みる」「ささえる」全ての人を楽しめる大会を開催し、市民の健康を増進するとともに、まちのにぎわいを創出します。
- (7) **インクルーシブスポーツ推進事業** **13,004千円** (前年度 13,487千円)
共生社会の実現を目指し、関係団体と連携しながら、誰もが共に親しめるインクルーシブスポーツを推進するとともに、パラスポーツ競技の普及を支援していきます。
- (8) **スポーツ国際交流事業** **3,800千円** (前年度 2,800千円)
韓国仁川広域市とのスポーツを通じた交流事業を行います。

- (9) **大規模スポーツイベント等開催支援事業** **98,630千円** (前年度 100,440千円)
「2025世界トライアスロン横浜大会」をはじめとする、大規模スポーツイベントの誘致・開催支援等を行うことで、トップアスリートの競技を観戦できる機会を創出するとともに、スポーツ観戦者の市内回遊を向上し、市内経済の活性化につなげます。
- (10) **トップスポーツチーム連携事業** **7,683千円** (前年度 6,403千円)
横浜を本拠地とする13のトップスポーツチームとの連携・協働体制である「横浜スポーツパートナーズ」を通じて、スポーツ振興やにぎわいづくりにつなげます。
また、チームと連携し、独自のふるさと納税返礼品を提供します。
- (11) **スポーツボランティア育成事業** **5,087千円** (前年度 5,144千円)
横浜市スポーツ協会が運営する「横浜市スポーツボランティアセンター」を通じたボランティアの発掘・育成・活動機会の創出に向けた取組を推進します。
また、横浜市スポーツ協会や競技団体が開催する講習会による地域のスポーツ人材育成を推進します。
- (12) **屋外プール再整備事業** **293,580千円** (前年度 282,175千円)
本牧市民プールを運営するとともに、横浜プールセンターの検討に当たっては、財政ビジョン等を踏まえつつ、広く市民や事業者の皆様のご意見も伺いながら進めていきます。
- (13) **横浜BUNTAI及び横浜武道館管理運営事業** **1,971,370千円** (前年度 1,953,715千円)
PFI事業契約に基づき、横浜BUNTAI及び横浜武道館の維持管理・運営を行います。
- (14) **横浜国際プール再整備事業** **50,000千円** (前年度 10,000千円)
横浜国際プール再整備の事業計画に基づき、実施方針の策定等を進めます。
- (15) **スポーツ施設管理運営事業** **1,716,034千円** (前年度 2,713,412千円)
各スポーツ施設の管理運営や必要な施設修繕を実施します。
ア 体育室空調機設置 **651,776千円**
体育室に空調機を設置していないスポーツセンターに空調機を設置します。
【工事】南、泉スポーツセンター
イ 体育館、プール等の運営等 **962,894千円**
体育館やプール等のスポーツ振興課所管施設の管理運営を行うとともに、各区所管スポーツセンターの修繕等を実施します。また、市民利用施設予約システムの運用等を行います。
ウ スポーツ施設脱炭素化推進 **101,364千円**
脱炭素化を推進するため、スポーツ施設の照明等へのESCO事業の運用及びLED化工事を計画的に進めます。
- (16) **横浜プールセンターPCB処理事業** **43,743千円** (前年度 -)
施設の一部に使用されていた低濃度PCBの除去工事を進めます。

4	4 款 1 項 4 目 にぎわい 観光 M I C E 振 興 費	本年度 千円	前年度 千円	差引 千円	本年度の財源			
					国・県 千円	市 債 千円	その他 千円	一般財源 千円
		5,543,132	5,224,954	318,178	10,000	—	1,582,435	3,950,697

にぎわい創出戦略部

観光 M I C E 振興部

- (1) 戦略的にぎわい創出事業 **290,268千円** (前年度 305,019千円)
 都心臨海部の水際線の魅力や公共空間等を積極的に活用したにぎわいづくりに取り組むとともに、地元企業・商店街・団体等が実施主体となる大規模イベントの開催支援や、大規模イベントを活用した民間事業者との連携による戦略的な回遊性向上・宿泊促進策を実施します。
 また、横浜で開催される大規模 e スポーツイベントの開催等の支援や、e スポーツを通じた交流促進による、地域コミュニティの活性化につなげます。
- (2) 創造的イルミネーション事業 **360,000千円** (前年度 360,000千円)
 都心臨海部の各地域のイルミネーションイベントと連携し、まちぐるみで回遊性の向上を図るとともに、まち全体が一体となった光と音楽で躍動するスペクタクルショーなど、先端技術を用いた壮大な演出により、開港以来、築き上げてきた都市景観を磨きあげ、横浜ならではの美しい魅力的な夜景を創出し、滞在時間の延長を通じた、にぎわいづくりにつなげます。
- (3) フェスティバルによるにぎわい創出事業 **180,816千円** (前年度 180,816千円)
 集積する音楽施設や大規模イベントと連携した発信力のあるコンテンツ、公共空間・オープンスペースを活用した街なか展開、次世代育成や市民参加の取組など、幅広い世代が楽しめる音楽を中心としたライブエンターテインメントのフェスティバルを開催し、回遊性の向上を通じたより一層のまちのにぎわい創出につなげます。
- (4) 戦略的誘客プロモーション事業 **407,552千円** (前年度 257,758千円)
 国内向けには、市内事業者と連携して、記念日等の非日常を楽しむことのできる特別感のあるコンテンツ開発に取り組むとともに、O T A やメディア、旅行博等を活用したプロモーションを実施します。また、冬季閑散期対策に加え、J R グループと地域が共同で実施するデスティネーションキャンペーンに向け、地域の観光資源の開発及びプロモーション素材の制作等を神奈川県と共に進めます。
 さらに、D M O である横浜市観光協会と共に、将来のGREEN×EXPO 2027への機運醸成と誘客を見据え、横浜観光の中心である都心臨海部で「花」をテーマとした観光ブランディング事業を展開します。
 海外向けには、対象国に合わせた戦略的なプロモーションを実施することで、インバウンドの誘客及び市内宿泊を促進します。あわせて、各種プロモーション機会を活用し、海外でのGREEN×EXPO2027の認知度向上を図ります。また、クルーズ・フレンドリー・プログラムを引き続き実施し、クルーズ旅客等の市内回遊性向上を図ります。
 また、横浜の観光公式ウェブサイト「横浜観光情報」や S N S 等を活用して、国内外に向けて横浜の観光・M I C E に関する情報を発信します。

- (5) **受入環境整備事業** **45,273千円** (前年度 48,264千円)
 桜木町駅及び横浜駅の観光案内所を運営します。
 新横浜駅については、AIチャットBot活用による効率的な運営を推進します。
 また、市内宿泊施設等のバリアフリー情報の発信や市内事業者向けセミナーを実施してユニバーサルツーリズムを推進します。
- (6) **三溪園施設整備等支援事業** **187,950千円** (前年度 182,680千円)
 重要文化財建造物の大規模修繕及び耐震対策工事を、緊急度の高い建造物から実施しています。7年度は、旧矢筈原家住宅、旧燈明寺三重塔及び庭園の修繕等に対し支援します。また、観光施設としての新たな魅力創出に向けて、正門周辺再整備の検討を進めます。
- (7) **DMO推進事業** **119,614千円** (前年度 122,225千円)
 ビッグデータによる人流データの分析やレポートの作成等を行うなど、DMOである横浜市観光協会のマーケティング機能を強化します。
 また、DMOが観光・MICEのけん引役として、マーケティング分析を観光施策に生かすとともに、観光地域づくりのワーキング等の開催を通じ、地域や観光事業者など多様な関係者によるデータを活用した事業展開を支援していきます。
- (8) **観光施設維持管理事業** **72,043千円** (前年度 65,846千円)
 本市の観光振興を図るため、所管施設（横浜人形の家、横浜マリントワー等）の維持管理・運営を行います。
- (9) **ヨコハマ・グッズ「横濱001」育成支援事業** **1,311千円** (前年度 1,380千円)
 ブランドプロモーション等、販売促進につながる事業に対する支援を行うことで、横浜観光の魅力向上、市内経済の活性化を図ります。
- (10) **観光振興事業** **41,914千円** (前年度 41,464千円)
 国内外からの来訪者の人数や属性、消費行動について調査を行うことで、得られたデータの経年比較や分析結果から、市内経済活性化に向けて効果の高い観光施策の立案に活用します。
- (11) **MICE誘致・開催支援事業** **358,061千円** (前年度 240,211千円)
 アフターコンベンションの充実等、参加者増・観光消費額増につながる魅力づくりや、関連産業育成・ビジネス機会拡大に向けた取組を推進するとともに、経済効果の高い中大型の国際会議・医学会議等の誘致を加速し、グローバルMICE都市としての競争力を強化します。
 本市の施策推進やシティープロモーションを行うために、各区局と連携し政府系国際会議の誘致・開催支援活動等を行うほか、パシフィコ横浜の搬出入等車両待機スペースの一部拡幅工事を実施し、待機スペースの不足を解消します。
- (12) **減債基金積立金** **125,462千円** (前年度 116,883千円)
 (株) 横浜国際平和会議場貸付金の元金と利子収入を減債基金に積み立てます。

(13) 20街区M I C E 施設整備運営事業 3,352,868千円 (前年度 3,302,408千円)

「パシフィコ横浜ノース」について、P F I 事業により維持管理及び運営を行います。新たな顧客開拓・市場創出に取り組み、にぎわい創出・市内経済の活性化に貢献します。

株式会社横浜国際平和会議場（パシフィコ横浜）に対する損失補償の設定

パシフィコ横浜の大規模改修の進捗に伴い、損失補償額を設定。

- ・ 7年度設定額：936,000千円（6年度設定額：1,404,000千円）
- ・ 設定期間：7年4月～9年3月

1 団体の概要

<事業目的>

国際・国内会議及び学術会議等各種催物、国内外商品等の見本市、展示会を企画、誘致及び開催する。

<設立>

昭和62年6月3日

<基本金>

7,565,000千円（うち、横浜市出資額：4,100,000千円 出資割合：24.4%）

2 団体の経営状況：5年度決算

売上高	10,446,775千円
売上原価	8,038,794千円
営業利益	1,445,009千円
当期純利益	988,917千円

3 損失補償を行う特別な理由・必要性

大規模改修工事着手に際し、パシフィコ横浜のあり方検討を行った結果、改修工事はパシフィコが金融機関から借入を行って実施し、市は必要な支援を行うことを意思決定している。

4 対象債務の返済の見通しとその確実性

6年度は催事件数も回復し収支も堅調に推移している。引き続き、売上の確保及び経費削減に取り組み、9年3月までに対象債務を返済する見通しである。

V 主な財源創出の取組

事業名	財源創出の内容	財源創出額
「創造・転換」による財源創出(歳出削減の取組)		
創造界限形成事業	運営主体に交付する補助金について、補助内容を見直すことで、経費を削減	20百万円
芸術文化支援事業	負担金額を見直すことで、経費を削減	3百万円
MICE誘致・開催支援事業	事業を見直すことで、経費を削減	5百万円
戦略的にぎわい創出事業	団体への補助金について、事業内容を見直すことで、補助金を削減	11百万円
スポーツ関係団体支援事業	市からの補助事業について、必要額を見直すことで、補助金を削減	12百万円
市民参加型スポーツ推進事業	地域コミュニティ活性化検討事業において、検討が終了したため、事業を終了することで、経費を削減	3百万円
戦略的誘客プロモーション事業	事業を見直すことで、経費を削減	8百万円
「創造・転換」による財源創出(歳入確保の取組)		
創造界限形成事業	旧第一銀行横浜支店を有償貸付に転換したことにより歳入を確保	18百万円
文化施設運営事業	ネーミングライツ導入施設の通年開館により、歳入を確保	8百万円
美術資料収集（文化基金）事業	ネーミングライツ導入により、歳入を確保	4百万円
MICE誘致・開催支援事業	公有財産貸付契約により、歳入を確保	8百万円
その他の財源創出(決算等にあわせた見直し)		
MICE誘致・開催支援事業	政府系国際会議等誘致・開催支援事業の執行内容を見直すことで、経費を削減	5百万円
その他の財源創出(その他の歳入確保)		
創造都市推進事業	国補助金を活用することで歳入を確保	4百万円
学校施設への夜間照明設置事業	スポーツ振興くじ助成金を活用することで、歳入を確保	20百万円

VI データドリブンプロジェクト

施策の所管部長を責任者とするプロジェクト形式で、ロジックモデル等のデータを活用して、施策目的と紐づく事業の関係性などを確認・検証し、施策の質を高めながら、効果的な事業への転換や類似事業の整理等の検討を行いました。

施策	事業名	データドリブンプロジェクトを踏まえた整理
文化 芸術	文化施設運営事業	ネーミングライツの拡充により、12百万円を財源創出 【分析】各文化施設の性質や状況ごとのグルーピング
	芸術文化教育プログラム推進事業	民間の取組との連携等により、子どもの文化芸術体験機会を拡充 【分析】子どもの体験格差実態調査、近年の事業実績
	子どもの文化体験推進事業	
	芸術文化支援事業	経費縮減により、3百万円を財源創出 【分析】イベントの認知率等
	創造界限形成事業	財源確保と経費縮減により、57百万円を財源創出 【分析】市民意識調査「横浜の魅力」、イベント・施設の認知率等
	アーツコミッション事業	